

県士会 ニュース

No.
197
[2019.6]

Kanagawa Association of Occupational Therapists — KAOT —

Contents

TOPIC

- 2 第17回神奈川県作業療法学会
プログラム・企画について
- 3 託児所&子ども休憩スペースを設けます！
- 3 エリア通信 2020 県内エリア化構想
の目的・役割について
- 1 作品コーナー
- 1 巻頭言
- 4 各部からの報告
- 5 理事会議事録
- 6 研修会案内
- 7 連載コラム ちょっと一杯どうですか？
- 8 新入職の方へ県士会への入会をおすすめ
ください！
- 8 編集後記
- 8 作品コーナー 作品大募集！

作品コーナー



作品名 ひなまつり

製作者 T・O様、H・K様、
Y・K様、S・Y様 他
(認知症、肺炎、くも膜下出血、
がん等)

作品について

ちぎる、貼る、塗る、書く、切る…みんな
で力を合わせたら大きな作品になりました。
髪の毛は毛糸、着物は和紙で作成し、質感
にもこだわりました。毎月変わる壁画はみ
んなの楽しみの1つです！

担当作業療法士

作業療法士一同
(医療法人社団 晃進会 たま日吉台病院)

巻頭言

変わること

教育部理事 (2017～2018年度)

神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部リハビリテーション学科作業療法学専攻

奥原 孝幸



桜吹雪の終わった頃この原稿を書いている。これが皆様のお手元に届いている今は長い連休は疾うに終わり、新年号が動いている。今年度神奈川県作業療法士会は役員改選の年である。この私も今は教育部担当理事でありその立場でこの巻頭言を書かせていただいているが、さて、届いている今は理事であるかはわからない。世の中とは面白いものである。変わるのが分かっているけど待たずに進めなくてはならないことが多くある。

今回はこの変わるものをいくつかご紹介し、それに備えていただき、なぜ変えるのか、変わった方がいいのか、変わっていないのか、変えない方がいいのではないのか、等々考えていただく機会としたいと考えている。

その一つは、臨床実習が変わることである。これは理学療法士作業療法士養成施設指定規則の改正に伴うものであ

る。すでに本ニュース前号巻頭言でも広報部ニュース班長の出口氏が触れており、厚生省やOT協会ウェブサイト等でも明らかになっているので詳細は省くが、よく読んでその流れまで読み取ってほしい。臨床実習の変化はその一連である。ここでは「臨床実習指導者講習会」を取り上げて、その準備をお願いしたいのが一番であるが、その中で養成教育、卒後教育、教育というもののそのものに関して考える機会とすることが大切だと自身に言い聞かせている。今回の変更は養成校だけのものではなく、臨床実習施設、臨床現場、作業療法士各人の問題でもある。そう時間はないが、ここで立ち止まって多くの作業療法士と意見交換したいと思っている。

今回の改正では、臨床実習指導者の要件が「5年以上作業療法に従事」、「臨床実習指導者講習会等の受講」となっ

P2へ続く

た。この臨床実習指導者講習会はこれまでOT協会では臨床実習指導者中級・上級としていたものである。本講習会は厚労省が認定した講習会である必要があり、内容や時間数（16時間以上）、講師要件等も細かく決まっている。昨年度から全国でOT協会主催の臨床実習指導者講習会が開催され、今年度から県レベルでも開催することになっている。また本研修会はOT協会、OT士会だけが主催するのではなく、全国リハビリテーション学校協会、日本理学療法士協会、OT協会の三団体による共催であり、県レベルでの開催ではPT・OTそれぞれの全国リハビリテーション学校協会都道府県臨床実習指導者講習会連絡校、PT士会、OT士会との協議のもと開催されることが決まった。今後研修会開催案内が各方面から出されるので是非参加頂きたい。なお、申し込みには4年以上の実務経験が必要である。2020年度入学生が臨床実習指導者要件の必要な臨床実習に出るのが2021年以降となる。それまでにこの指導者要件を全ての作業療法士が満たすようお願いをしたい。皆様方のご支援がないとこの変更は進んでは行かないものである。ご理解と強力なご協力をお願い申し上げます。

もう一つは、研修会受付システムに関してのご報告である。すでに昨年度より協会会員証が送付されなくなってい

る。またOT協会からは研修受講カードが送付されている。この違いをまず確認しておきたい。研修受講カードは会員証ではなく会員証の代替でもないということである。会員証は送付されず協会ウェブサイト内の会員ポータルサイトにあり、必要時印刷して使用することになっている。研修会受講カードは研修会参加時、受付にてバーコード入力するため協会、県士会主催の学会、講習会、研修会参加時には必要となる。今年度各種研修会にて試行する予定である。このバーコード入力手続きをすると研修会受講歴が会員個人の会員ポータルサイトに自動的に反映されるため生涯教育手帳受講記録がなくなり廃止されるはずだったが、そのシステム開発が1年遅れている。本来ならこの号にてその移行手続きのご案内をするはずだったが、今回それは叶わない。また移行手続きかとの声が聞こえてくるが、このような手続きはこれが最後になる。来年早々にOT協会誌に詳細が掲載されるのでご注意ください。

変化には従うことも必要だが、やはり流されないようにしたいものである。流され気味ではあるものの、皆さんに頼りながら踏ん張りたいと思う今回の変化である。変わることは難しいものですね。

第17回神奈川県作業療法学会 プログラム・企画について

プログラム・企画運営委員長 吉本 雅一



新たな作業療法時代へ ～ Change & Challenge ～ と題して、作業療法が新時代に向けてどのように貢献していくかを一緒に学び考える機会になればと思っております。特別講演、教育講演、公開講座を併せて4演題企画しています。

特別講演『高次脳機能障害の作業療法とその効果 未来への挑戦と希望』と題し、3名の先生方にシンポジウム形式でご発表いただきます。高次脳機能研究の第一人者である種村留美先生、神奈川県の高次脳機能障害専門作業療法士である森下史子先生、地域支援事業のパイオニアである野々垣睦美先生、座長に横浜市立脳卒中・神経脊椎センターの早川裕子先生をお迎えし、それぞれの領域でのトピックスと、高次脳機能障害に必要な作業療法とは何か、今後の課題は何かを探り、未来に向けた挑戦・希望について講演・討論いただきます。知識や治療はもちろんのこと、その人らしく社会で生活していくために、どのような支援をすることが良いかを皆さんと一緒に学び考えます。

教育講演では、『認知症のADL・QOL研究最前線』と題し、作業療法の実践による効果や、認知症予防とリハビリテーションについて、最前線で活躍される湘南医療大学の竹原敦先生にご講演いただきます。また『自動

車運転と作業療法 最新アップデート』では、全国に先駆け県警本部で活躍されている白岩淑子先生に、交通事故の防止と交通安全の向上について実践を踏まえながらご紹介いただき、神奈川県警運転教育課における作業療法士の役割とその専門性についてのご講演と、意見交換を予定しております。

公開講座では、『超高齢社会の救世主?! 未来に役立つIT技術と介護ロボット～リハビリテーションの視点から～』と題し、公益財団法人テクノエイド協会の五島清国先生、国立研究開発法人産業技術総合研究所の梶谷勇先生、横浜市総合リハビリテーションセンターの桑田哲人先生、座長に学校法人敬心学園の小林毅先生をお迎えしました。各専門領域での研究事業はもちろんのこと、私たちの社会生活に役立つIT技術を利用した介護ロボットの活用と作業療法との関わりを紹介していただきます。また、今後の日常生活、医療・介護・リハビリテーション分野（作業療法）での有用性と実現可能性についてシンポジウムを開催します。最新IT技術と介護ロボットの課題抽出と開発、普及の取り組みを通じて、リハビリテーションの視点から、今後求められる近未来の社会像について発信していただきます。

託児所 & 子ども休憩スペースを設けます！

子どもスペース担当 **大郷 和成**（遊びりパークリノア）

こんにちは！学会子どもスペース担当の大郷です。今回は「託児所」と「子ども休憩スペース」のご案内をさせていただきます。

【託児所について】

第17回神奈川県作業療法学会にて臨時託児所をご用意いたします。ご利用は学会の参加者に限ります。託児所の利用には時間制で低額ですが料金を頂戴いたします。申し込みは先着順となりますので、ご希望の方は学会ホームページの「子どもスペース」よりお申し込みください。

【子ども休憩スペースについて】

今学会より会場内に子ども休憩スペースを設けることになりました。乳幼児が遊べるおもちゃなどがあるスペースを確保し、小さなお子様が進んでいる横でご家族

が休める場所をご用意いたします。休憩スペースでは乳幼児の食事も可能となっております。水やお湯の用意もごございますので、必要に応じてご利用ください。

なお、子ども休憩スペースでの怪我や事故など学会運営側は一切の責任を負えません。お子様から目を離さないようお願い致します。

また、子ども休憩スペースとは別に、会場内に授乳室（ベビーベッド設置）が2か所ございます。こちらもご自由にお使いいただけますのでご利用ください。

お子様連れでの参加を検討されている方へ。ご不明な点などございましたらお気軽にご連絡ください。できる限りお力になりたいと思います。よろしくお願い致します。

E-mail : info@laulea-linoa.com

エリア通信

2020県内エリア化構想の目的・役割について

エリア化構想準備委員会 **澤口 勇・神保 武則・大郷 和成**

毎号お伝えしている「県内エリア化への進捗」の今回は「エリア化の目的・役割」について紹介致します。

まず、神奈川県作業療法士会は、県内で働く各作業療法士たちが「地域に根差した作業療法の実践」を果たすために、様々な部署が役割を担っております。例えば、必要な知識や技術をはじめ人材育成などの獲得を主に「学術部」や「教育部」が担い会員の学術向上や研鑽の機会を提供して参りました。

所属している各会員の大半は主に医療機関に所属し、作業療法サービスを提供しておりますが、近年の急速な高齢化社会に対応すべく「地域包括ケアシステムの確立」などが国の方針として掲げられました。私たち作業療法士も、医療機関の患者に限らず、それぞれの地域で暮らしている市民の健康を、行政や他の職能団体、さらに支援団体らと連携し、共に支えていく責務が新たに課せられました。これらの時流を真摯に考える中で、改めて当会として、「各会員が地域で作業療法を実践していく際にどのようなお手伝いができるだろうか？」と検討を繰り返し、出てきたワードが「ネットワークの構築」です。将来、県内全域に存在する作業療法士たちが、「市町を主に検討をするエリアごと、各エリアの作業療法士たちとも連携を成し、行政や他団体と共に県民や市民を支えていくことになるであろう」との予測を立てました。こ

れは予想ではなく実現すべき課題であるならば、今から様々なネットワークの構築を準備していく必要がある、との結論に達しました。

少し前までの医療福祉では、一施設で入院から退院後のケアまでを一人の作業療法士が担当することも少なくありませんでした。しかし、現在の医療制度は急性期～回復期～維持期と分業を体制の一つとしています。また医療や障害福祉の制度改革などにより、働く領域も多様化しております。地域包括ケアシステムの実現に向け、ひいては地域共生社会を支えていくには作業療法士としての経験年数や分野を超えて、地域単位の会員同志がつながることが必ず必要になるだろうとの強い考えの上にエリア化の考えに至りました。

2019年度の当委員会における事業では「顔が見えるナナメの関係づくり：ネットワークの構築」をまずは第一の目的とし、エリアごとに会員のみなさまに集まって頂く企画を進めております。招集の時期や呼びかけるエリアをどう分けていくか等に関しては現在、議論しており、決まり次第、県士会ニュースなどを通じて、会員の皆さんに周知していきます。今後も欠かさずに、県士会ニュースをお読み下さい！

私たちの力を合わせて共生社会を共に支えていきましょう！皆さんが主役になれる県士会を目指して。

地域包括ケアシステム推進委員会

「一般介護予防事業の実践報告」

文責：川上 新（済生会神奈川県病院）

地域包括ケアシステム推進委員会の活動の1つとして横浜市地域リハビリテーション活動支援事業への派遣協力があります。具体的には横浜市が進めている住民が主体的・継続的に介護予防活動に取り組むグループ【元気づくりステーション】へのグループ支援です。元気づくりステーションは市内に300グループ以上が立ち上がっており様々な活動を行っています。その中で担当の保健師から派遣相談シートを通してグループに特化した具体的な相談依頼を受けてOTとして関わっていきます。

今回、私が関わらせて頂いた元気づくりステーションが主に行っていた活動は代表者の方が中心となって体操・歌・脳トレ・茶話会などを行っておりました。しかし内容が代表者の方に依存した内容になってしまい他の参加者が受身的であるため代表者の方が退いてしまったら会の存続が危ぶまれている。と危機感を抱かれての相談でした。OTが関わる事で期待する事として

- 参加するメンバーが自信を持って参加出来るようになってほしい。
 - コミュニケーションがとれ、お互い「また今度」等の声かけが出来るようになる。
 - 自分の役割・出来る事をメンバー自身が意識し、活動できる。
 - 認知症の方も楽しく参加できる。
- の4点が目標として提示されました。

時期を分けて2回介入する依頼でしたので1回目に

OTの説明と、様々なレクリエーションを提示してどのような効果があるかを具体的に説明し、実践して頂きました。2回目には1回目に提示した内容を踏まえて会としてどのように行っていくかの確認を行い、また再度集団で楽しめるレクリエーションの提示、会のメンバー全員が意見を出し合う事の重要性を話させて頂きました。また2回とも事前に興味関心チェックリストを付けて頂き、その変化をフィードバックさせて頂きました（皆さんの【している】項目が増えました）。結果的にはOTが介入した事で会全体が明るくなった、みんなが意見を出しあう様になり活発になったとの評価を頂きました。

今回関わって感じた事としては、普段所属（私は回復期病院勤務）している場所で行っている作業療法は地域でも求められているという事でした。グループでも個人でも【生きがいの重要性】や【人は作業をする事で元気になれる】というフレーズはご自身の人生の中で何が大切なのか？という問いを再度意識して生活に落としこんで頂いている方が多いなと感じました。また区役所の職員、保健師の方々とも有意義な意見交換を行え、より良い地域にしていきたいという思いの共有が出来た事も大きな収穫でありました。

私の個人的な理想を言えば病院勤務のOT（特に回復期）がどんどん地域住民や関係職員と関わる機会が増える事で病院と地域の垣根を越えて新しい形の【地域作り】が発展していく事を期待します。

学術部研究助成班

2019年度の研究助成事業の要項変更について

文責：佐々木（学術部）

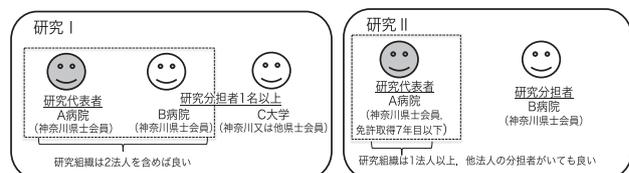
神奈川県作業療法士会の研究助成事業では、毎年2研究課題に対してそれぞれ最大20万円の助成金を出しています。この事業の目的は、神奈川県作業療法士会の発展に寄与する研究・実践についての知見を多くの会員間で広く共有することであり、最終的には論文投稿するまでを目標としています。2018年度から若手を含めた様々な神奈川県士会員からの研究活動を活発化させるため、応募要項のうち研究代表者及び研究組織の要件を一部緩和しました（右記の図を参照）。2018年度は、理事会にて10万円の補正予算が承認され、研究Iが1名、研究IIが2名の合計3名に支給されました。

2019年度における研究課題の公募期間は5月1日から7月31日までです。興味のある方は、県士会ホームページで研究助成事業概要及び必要書類を確認して下さい。研究となると敷居が高く感じられますが、チャレンジしたいと考えている方に対して、学術部が相談に乗

ることも可能です。質問や相談したことがある方は、学術部研究助成事業班 kana-zyosei@kana-ot.jp まで気軽にメールして下さい。

【研究代表者及び研究組織】

- （研究I）研究代表者は全神奈川県士会員。
研究組織は 2 法人以上（研究分担者は神奈川県士会員を 1 名含む）。
- （研究II）研究代表者は免許取得7年目以下。研究組織は 1 法人以上。



理事会議事録

★平成30年(2018年)度12月

1. 日 時：2018年12月20日(木) 19:00～20:28
2. 場 所：神奈川県作業療法士会事務所
3. 出席理事：錠内・野々垣・木村・金山・吉本・佐々木・神保・遠藤・作田・澤口・大郷(11名)
欠席理事：奥原・玖島・野本・名古屋・村越・佐藤(6名)
出席監事：田中・糊澤(2名)
その他：明立・平山(書記)
4. 審議事項
 - (1) 事務局
 - 1) 相模原市介護認定審査会委員
河村晃依氏(北里大学) 継続、迫田裕司氏(田名老人保健施設光生) 新任
 - 2) 相模原市障害支援区分判定等審査会
佐々木秀一氏(北里大学病院)、湯浅まり氏(相模台病院)、佐藤隼氏(さがみリハビリテーション病院)(以上継続)、前場洋佑氏(北里大学)(新規)
 - 3) 厚木市障害者介護給付費等の審査会委員
玉垣幹子氏(神奈川リハビリテーション病院) 継続
 - (2) 財務部
 - 1) 今後の課題について
「予算案の明確化」「(繰越金に依存しない) 緻密な予算作成」「収入源の拡大」「専門家の協力・助言」が上げられた。
 - (3) 学術部
 - 1) 会員交流会日程について
2019年6月16日(日) イムス国際看護専門学校にて開催予定。
 - 2) リウマチの作業療法～私たちOTにできること～スプリント療法を中心に
2018年11月23日横浜南共済病院
講師：中西理佐子氏 作業療法士、長岡章平氏 医師、鈴木良江氏 薬剤師、牧田優佳氏 作業療法士、前田優氏 作業療法士(全員横浜南共済病院)
参加数：27名
 - 3) 認知症の生活支援で私たちができること
2018年12月9日(日) ハーモニーとよおか
講師：渡邊信介氏 作業療法士(介護老人保健施設鶴舞乃城) 小滝治美氏 理学療法士(初富保健病院)
参加数：28名
 - 4) 研究ははじめの一歩、押さえておきたい研究周辺知識
2018年12月8日(土) イムス横浜国際看護専門学校
講師：内田健太郎氏 臨床工学士(北里大学医学部整形外科学講師、医学博士)
参加数：25名
 - (4) 広報部 対外広報班
 - 1) はろーよこはま

2018年10月7日横浜スタジアム周辺
検査体験は5時間で50名対応。パンフレット配布や介護相談・作業療法紹介は30名対応。

- 2) 介護フェア
2018年11月4日横浜そごう新都市ホール
神奈川新聞主催。今年度は理学療法士会・言語聴覚士会と共同出展した。
- 3) 川崎介護いきいきフェア
2018年11月14日
かわさきJプロジェクトと共同出展。
- 4) ウィーログアプリ バリアフリーマップづくり地域調査イベント
2018年11月17日
海老名地域のバリアフリー情報の調査協力
- (5) 制度対策部 福祉用具関連事業班
 - 1) H.C.R(10/10～10/12)
「ふくしの相談コーナー」への6名人員派遣済み。OT協会より派遣依頼にて東京都士会福祉用具部員と協業し79件の相談対応を実施。
- (6) 地域リハビリテーション部
 - 1) 介護予防普及展開事業アドバイザー
地域ケア会議の県アドバイザーに遠藤理事が就任。
 - 2) 藤沢市地域ケア会議のリハ専門職派遣、参加依頼市職員と話し合い、人選・参加を行っている。
- (7) 地域包括ケアシステム推進委員会
 - 1) 横浜市地域リハビリテーション活動支援事業研修会(横浜市主催)
2018年12月13日(木)横浜市社会福祉センター
参加数：PT 71名、OT 16名、ST 9名
以上(文責：明立・平山・金山)

★平成30年(2018年)度1月

1. 日 時：2019年1月24日(木) 19:05～21:10
2. 場 所：神奈川県作業療法士会事務所
3. 理事会定数
出席理事：錠内・木村・金山・吉本・佐々木・野本・遠藤・名古屋・村越・澤口・佐藤・大郷(12名)
欠席理事：野々垣・奥原・神保・作田(4名)
参加監事：田中(1名)
欠席監事：糊澤(1名)
その他：池田(選挙管理委員長)、岩切・宮沢・榎本(書記)
4. 審議事項
 - (1) 事務局
 - 1) 総会日程について
2019年5月19日(日) 9:30～12:00 かながわ労働プラザ
 - 2) エリア化構想準備委員会 代議員へのアンケートについて
代議員へ「県士会と会員に関するアンケート」をメール配信し、ウェブ入力で依頼する予定。
 - 3) 茅ヶ崎市 地域ケア個別会議参加について
遠藤毅氏(茅ヶ崎新北陵病院)に依頼

- (2) 財務部
 - 1) 期末監査について
2019年4月13日(土) 14:30～神奈川県作業療法士会 事務局
- (3) 学術部
 - 1) 手指・上肢運動麻痺への徒手アプローチ
2019年1月20日(日) 済生会横浜市東部病院 田邊浩文氏(湘南医療大学保健医療学部リハビリテーション学科教授 作業療法士)
参加数:37名
- (4) 教育部
 - 1) 現職者共通研修「事例報告と事例研究」
2018年12月23日(日) ウイリング横浜 水野健氏
参加者数:64名
 - 2) 現職者選択研修「身体障害領域の作業療法」
2018年12月16日(日) ウイリング横浜 田邊浩文氏・大森みかよ氏・藤本一博氏・西尾香苗氏
参加者数:80名
 - 3) 事例報告登録制度研修会
2019年12月23日(日) ウイリング横浜 奥原孝幸氏
参加者数:59名
- 4) 研修会管理システムについての変更に関して
OT協会教育部生涯教育委員会よりシステム開発の遅延があってシステム公開は1年の遅延(2020年4月公開)と連絡あり。
- (5) 地域リハビリテーション部
 - 1) 訪問リハ学術集会
2019年1月20日(日) 関内新井ホール
参加118名(内OT39名)
- (6) 制度対策部 社会保障制度対策班
 - 1) 自動車運転とOTに関して
ネットワークづくりを目指し、有志メンバーと意見交換会を今期2回目を実施。
- (7) 学会評議委員会
 - 1) 今後の臨床大会の在り方について
2020年臨床大会を実施する方向で考えるも、運営方法には検討が必要。
- (8) 認知症対策委員会
 - 1) 認知症の人と家族のつどい
2019年1月13日(日) 4名参加
- (9) 地域包括ケアシステム推進委員会
 - 1) 地域包括ケアシンポジウム
2019年1月13日(日) あーすぷらざ
参加者:53名(会員19名、県外OT4名、PT20名、その他10名) 以上(文責:山口・金山)

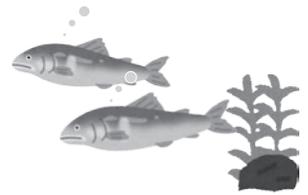
研修会案内

- 好評につき第2回!! 発達が気になる子への読み書き指導ことはじめ
主催: ジャパンライム株式会社 日時: 2019年6月2日 場所: 損保会館
URL: <https://www.event-form.jp/event/4462/wbe8Fu>
- 発達が気になる子への生活動作の教え方
主催: ジャパンライム株式会社 日時: 2019年6月2日 場所: 損保会館
URL: <https://www.event-form.jp/event/4463/VvLzt5>
- ものづくりシーティングセミナー 原理編×工房実技編～シートクッションをつくろう～
主催: 日本ユニバーサルリハビリテーション協会 日時: 2019年6月14日
場所: 八王子市芸術文化会館いちょうホール URL: <http://universalreha.com/>
- 【触診が苦手な方限定】関節・筋の触診セミナー基礎編
主催: 療法士活性化委員会 日時: 2019年6月15日 場所: ウイリング横浜 ゆめおおおかオフィスタワー
URL: <https://lts-seminar.jp/syokushinkiso/>
- 第26回日本赤十字リハビリテーション協会研修会のご案内
主催: 日本赤十字リハビリテーション協会 日時: 2019年6月22日～23日 場所: 名古屋第二赤十字病院
URL: <http://jrcra.sakura.ne.jp/03kensyuukai.html>
- ポジショニング R.E.D. セミナー 理論編×実技体感編～微小重力環境で行う筋緊張制御～
主催: 日本ユニバーサルリハビリテーション協会 日時: 2019年6月23日
場所: 八王子市芸術文化会館いちょうホール
URL: <http://universalreha.com/>
- アクティビティインストラクター資格認定セミナー 東京会場
主催: 認定NPO法人芸術と遊び創造協会 高齢者アクティビティ開発センター 日時: 2019年7月6日
場所: 中野サンプラザ
URL: https://artplaylab.jp/activity_care/activity_instructor_seminar/
- 〈2019年度〉よこすかOT勉強会のお知らせ
主催: よこすかOT勉強会 日時: 毎月第2火曜日 場所: 神奈川県立保健福祉大学
URL: なし

連載
RENSAI
COLUMN
コラム

ちょっと一杯 どうですか？

No. 11 「遡上」



『おじちゃん』って近所の子供たちに呼ばれている私も、自宅近くの病院に勤務する作業療法士。病院では、誰からも『〇〇先生』と呼ばれている。

ときどき、私は子供と近所の川に釣りに行く。川の流れば一定だが、その流れに逆らうように上流に頭を向け一生懸命に泳ぐ魚たちがキラキラ輝く。魚が目指すは上流だ。彼らの記憶にはないであろう上流に向け、ただひたすら泳ぎ続ける姿を見つ『お前たちの流線型と立派なヒレがあるならば、しっかりと泳ぎ切り、きっと望んでいる上流水域に辿りつけるだろう』と、長閑な川のドラマを描いた。本能がそうさせるのか、自らの意志なのか、さてさてこの続きは乞うご期待…など、思いに耽っていると“パパ早く!!”と急かされた。さて、何が釣れるかお楽しみ。とりあえず子供の竿から釣り支度を始めた。

自分の趣味嗜好は歴史が宿る。この川釣りも、自分が子供の時期に親父や友達から教えてもらったもの。幼少期の昔の自分とついつい比較ができる唯一の振り返りだ。すっかりのめり込んでいた幼少の頃、雨が降ろうが風が吹こうが川に行き釣り糸を垂れ、釣れても釣れなくても釣果を親父に報告したもんだ。“勉強もそのくらい熱心にやってくれば何も言うことないんだが、まったく…”と言われつつ、激励や助言を貰う。『そうか、次はこうしてみよう』と兎に角のめり込んでいた。お年玉を貯めてやっと買った釣竿を宝物にして、毎日竿を伸ばしたり、磨いたり、頭の中に出てくる色々な魚と会話していた。何だかんだ色々な仕掛けを考えて、魚がどんな川虫を食べているのかなど川に入って採取したり、釣った魚の腹を裂いて調べたり…など、今思えば、ガムシャラだったなあ。当時“釣リキチ〇平”というコミック本を夏休みの読書感想文の宿題で書こうとしたら母親に叱られたけど、今となっては全てが懐かしい思い出だ。

職場から離れ川に来たこんな瞬間も、自分にとっては職場に戻った時の活力となる。ふと、一旦持ち場を離れることは自分を冷静にさせるコツだ。そう、自分が起こす行動が全てではなく、自分の周りにいる人の助けがあるから自分が自身として保てるのだ、と自分を振り返ることも、臨床で患者を診る時のヒントにもなる。同じところに長くいるほどそれが困難になったりもする。“全てにおいて自分が正しい”もしくは、“全てじゃないにしても大体正しい…”と、冷静になりにくい環境や周りに注意を払えない状況を自らが作ってしまっていることに全く気付かないでいることは非常に危険。この一連の過程は自らの成長を制し、気付いたときには四面楚歌となるパターンだ。

作業療法は100年以上の歴史をもつ（我国は50年以上）。それは今や誰もが注目している「リハビリテーション」に欠くことができない医療専門職と私は考える。止まれ。我々は、歴史だけに溺れてはいないか。僅か100年50年で何を築いてきたのか。今一度考えたい。他職種に作業療法の説明ができるか。説明する機会を作ったか。はたまた、社会に認められるように個々のアクションを起こしたか。周囲に作業療法を伝えること（啓発）をしているか。時に自分の目の前に障がいを抱えている方がいたら自ら何等かの手を差し伸べてみたか。地域の催し物や自治体活動に作業療法士として参加しているか。作業療法士養成校は、国家試験の合格率を気にする教育に囚われていないか。作業療法を学ぶ学生たちに対し具体的にどんなやりがいをもつ専門職であると伝えているか。自分は作業療法士として何をすべきか。どんな貢献ができるか。作業療法や作業療法士のこれからはどの方向に向かうのか。幾重にも幾筋にも連なる川の流れの中で、そこにある深みや濼みで溺れてはいないか。個の世界観だけに頼り四面楚歌になっていないか。自分の職場だけで作業療法を完結して良いのだろうか…、思考は止まない。自分の生きてきた道をもう一度見返し問い質してみることは、強ち悪いことじゃない。自分にできることを探す旅路は縦横無尽だ。ただ、何のための旅路か、その目指すものを常に探す必要があることは間違いではない。作業療法を知る我々の人生は良くも悪くも様々な経験から出来ているのだから。自分たちが作ってきた道に何一つ間違いはない。ただ、この先我々はどこを目指していくのか。皆がバラバラにならないように学会や集会で考えや意見を交換していく、そんな節目に来ていると思う。まさに作業療法士とし個々の人生を川に例えたドラマの続きを堪能する時期かもしれない。

川魚の代表「鮎」は、秋に産卵をし、孵化した稚魚は川を下って海で育ち、また春に川へ戻ってくる年魚。「鮎」は独特のスイカの香りをもつので香魚とも呼ばれ、この時期の川はスイカの香りが漂う初夏の風物詩。さあ、皆さんも作業療法士としての川を一旦下り、「遡上」してみてはいかがでしょうか。色々な発見やトキメキがあるかもしれませんね。

今回も登場した“おじちゃん”。OTを一生涯の仕事と決意し、長いOTの歴史と共に奮闘している“おじちゃん”です。あくまでもおじちゃん視点での作業療法学を織り交ぜた連載コラムです。面白エピソード満載です。次回もお楽しみに。

(文責：ペンネーム おじちゃん)

新入職の方へ 県士会への入会 を おすすめ ください！

当会は研修会だけでなく、神奈川県民の保健・医療・福祉の向上に寄与することを目的として活動しています。神奈川県をよりよくするため、一緒に活動する仲間を増やしていきましょう！！

入会案内

当会 HP (<https://kana-ot.jp/>) 「入会手続き」 から入会申込書をダウンロードしてお申込みください。

事務局

作品コーナー 作品大募集！

作業療法で作られた対象者様の作品を県士会ニュースに掲載しませんか？紙面を彩る素敵な作品を募集しております！

応募方法 ①お名前(ふりがな) ②年齢 ③プロフィール ④作品タイトル ⑤作品について作者から一言 ⑥担当 OT のお名前 ⑦ 担当 OT のご連絡先 (Email、電話番号など) ①～⑦を記載し、作品写真を添付して下記アドレスへメールしてください。

募集締切 随時募集しております。

お問合せ Kouhou-sakuhin@kana-ot.jp

編集後記

雨に紫陽花の花が鮮やかに映える季節となりました。平成から「令和」へと元号も変わり、平成生まれのわたしにとっては元号の発表や変わる瞬間は不思議な感覚でした。新たな年の幕開けになりますが、これからはどんな年になるか楽しみです。(ゆず)

一般社団法人 神奈川県作業療法士会ニュース (197号) 2019年6月発行(年6回発行)

発行責任者 錠内 広之

編集責任者 神保 武則

編集担当 出口 弦舞(国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 作業療法学科)

山岡 洸(湘南慶育病院) / 佐藤 愛(新戸塚病院) / 安田 優子(横浜旭中央総合病院)

丸岡 ちひろ(済生会横浜市東部病院) / 松井 洋鷹(浏野辺総合病院)

印刷 発送 株式会社高陽印刷所

事務局 〒231-0011 横浜市中区太田町 4-45 第一国際ビル 301 号

TEL/FAX : 045-663-5997

月火水木金 10:00~15:00

メールアドレス : jim@kana-ot.jp

一般社団法人 神奈川県作業療法士会ウェブサイト

<https://kana-ot.jp> → [作業療法](#) [神奈川](#) [検索](#)

Facebook

<https://www.facebook.com/kaotwebkan>

Twitter

<https://twitter.com/kaotwebkan>

